

校訓 至誠貫行 「清い心で粘り強くやりぬく」

【校訓意訳】 至誠とは「とても誠実なこと。また、その心」。すなわち「自分だけの利益や欲求を加えることなく偽りや飾りのない清い心で」という意味。私利私欲を求めない志は「社会のために」と理解できる。貫行とは「貫いて、やりぬくこと」。すなわち「惑うことなく一筋に、粘り強く取り組み、最後までやりぬく」という意味。以上より、至誠貫行とは「清い心で粘り強くやりぬく」ことであり、「社会のために貢献する」ことに他ならない。

I 本校のミッション(使命、存在意義)

本校の使命は、「社会規範を尊重し、心身ともに健康でたくましい人」「創造性に富み、社会の変化に主体的に対応できる人」「心豊かで郷土を愛する心を持ち、地域の人々に信頼される人」の育成に努めることである。
本校の存在意義は、地域で育った生徒を地域に貢献できる社会人として送り出すことによって、保護者や地域の人々の信頼と期待に応えることである。

II ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン(将来像、目指す姿)

- 1 あいさつが飛び交う学校
- 2 確かな学力を身につけられる学校
- 3 「思いやりのものづくり」を展開し、地域とともに歩み、地域から信頼される学校、生徒保護者が誇りに思える学校

III 平成 26 年度の具体的な学校経営目標・計画

1 社会人を育てる(キャリア教育の充実・職業人としての倫理観・豊かな人間性を育てる)

- ① キャリア教育の充実
 - 1) 3年間の体系的指導計画の具体案を提案する(進路課、わかる安全プロジェクト)
 - 2) ガイダンス機能を充実させる(教務課)
 - 3) インターンシップを充実させる(専門科、進路課)
- ② 職業人としての倫理観
 - 1) 誰もが、いつも、気持ちよい挨拶をする(生徒課、全教職員)
 - 2) 5S運動、校内美化のわかりやすい指標を示して達成を目指すとともに定期的に達成度を確認する(厚生課)
 - 3) 基本的生活習慣を確立するためのわかりやすい指標を示して達成を目指すとともに定期的に達成度を確認する(学年団)
 - 4) 生徒指導件数減少を目指すとともに定期的に達成度を確認する(生徒課、学年団)
- ③ 豊かな人間性
 - 1) 教育相談体制と特別支援教育体制の充実と周知と有効活用を図る(相談課、わかる安全プロジェクト)
 - 2) 全てのクラス、部活動、委員会活動で目標設定を全体で共有(一覧表など)する(生徒課、学年団)
 - 3) 目標に基づく具体的活動計画でクラス、部、委員会等の生徒組織の活性化を図る(生徒課、学年団)

2 専門力を育てる(確かな学力の定着・スペシャリストの育成・環境に配慮したものづくり)

- ① 思考力・表現力・問題解決能力の育成による、確かな学力の定着
 - 1) 安全で基礎・基本を大切に授業に取り組む(全職員、わかる安全プロジェクト)
 - 2) 具体的な目標をひとり一項目掲げて授業改善に取り組む(全職員)
 - 3) 教育相談、特別支援教育の視点から、人間関係づくりに基づく授業改善の提案と実施(相談課)
- ② 未来のスペシャリストを育成する
 - 1) 魅力ある専門科づくりを目指し、具体的な指標を掲げて取り組む(専門科)
 - 2) 『スペシャリストへの道』を活用して資格検定合格実績をあげる(担任、専門科)
- ③ 環境に配慮した活動・生活ができる生徒を育てる
 - 1) 環境に配慮した学習内容を工夫して校内研修会を開催する(指導教諭、全職員)
 - 2) 学校生活すべてに於いて環境教育を展開する(指導教諭、全職員)

3 開かれた学校づくり(地域・家庭との連携、地域の教育力)

- ① 出かける活動で地域・家庭との連携を図る
 - 1) 津工オープンファクトリーの推進と広報(専門科)
- ② 知らせる活動で地域・家庭との連携を図る
 - 1) 中学生への広報(学校案内、ホームページ、オープンスクール、説明会等)の一般的な見直しと充実(教務課)
 - 2) 地域や保護者への広報(〇〇通信等)はニーズに応じた計画的提供(全課、専門科、学年団、担任、全教職員)
 - 3) 個人面談、三者面談等の目的と内容も含めた年間計画を立てて遂行する(学年団、担任)
- ③ 来てもらう活動で地域・家庭との連携を図る
 - 1) 学校公開、授業公開を充実させ、公開授業見学者数を増加させる(教務課)
 - 2) 地区別説明会、進路説明会、中学校訪問の充実を図る(教務課)
 - 3) P T A総会や地区別保護者会の出席者数の増加方法を企画して実施する(教務課)
- ④ 地域の教育力を活用する、地域に貢献する
 - 1) 地域企業と連携を深め、インターンシップ環境の構築や社会人講師の開拓などをすすめる(専門科、進路課)
 - 2) 生徒の学習環境を充実させるために大学や自治体との連携を深める(専門科)
 - 3) 小学校、中学校との連携協力と情報交換をすすめる(生徒課、相談課、学年団)